

2008年新年賀詞交歓会／挨拶

JABM 会長 芳賀 美次

会員の皆様、改めて 明けましておめでとうございます。
本日は、ご多忙のところ、大勢の方々にご参加いただき、誠にありがとうございます。
日頃より皆様のご支援とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

また、新聞社の記者の皆様、当協会の活動に、いつも深いご理解とご支援を賜り、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

さらに、先程の「新春記念講演会」でご講演していただいた講師の皆様、現場で先頭に立たれて実践された大変貴重で有益なお話、本当に有り難うございました。
今後また、機会がありましたら、ご指導よろしくお願い申し上げます。

さて、年頭にあたりまして、一言、協会の活動状況と当協会が集計致しました、2007年度ボンド磁石の生産推定値をご報告致したいと思っております。

まず、活動状況ですが、2007年も会員の皆様にお役に立つ協会を目指して、5月と9月には技術例会を行い、12月には国際シンポジウムを開催しました。これらは、技術的内容の講演会ではありますが、藤平技術委員長が中心になり、技術委員皆で活発に討議し、企画して実施しているものであります。

この中で特に、12月7日のシンポジウムは、「ボンド磁石の最新技術動向と資源問題」を特集に組みましたが、今回初めて「国際」を頭に付けて、「国際シンポジウム」にさせていただきました。世界を見渡してもボンド磁性材料の国際シンポジウムがないため、ボンド磁石の先進国日本が、それにふさわしいと、技術委員会メンバー全員の強い熱気でそう致しました。今年の講演者は、中国から4名、ロシアから1名、日本が4名であり、「国際シンポジウム」にふさわしい講演会であったと思っております。

今年以降も、「国際シンポジウム」であって、海外から最新情報が入って来るようになるには、原田CEOと大森副会長には、日頃より海外の優れた講師に、目星を付けておいていただくよう、宜しくお願い致したいと思っております。

次に、12月6日の「世界ボンド磁石統計討論会」は、企画委員会の主催になりますが、国内と中国からも今回は、大勢参加していただき、また大森副会長のお骨折りでロシアからも参加いただき、初めてロシアの磁石生産状況がよく見えました。討論会は、石田企画委員長の周到な準備と素晴らしい司会で、活発な討論になり、内容の充実したものになりました。

また、昨年始めた 勉強会の「寺子屋BM塾」は、「永久磁石のイロハ」でありましたが、浜野塾長の教育に関する総合的企画力と旺盛なサービス精神で大盛況でありました。参加希望者が多く、前期、後期の二回に分けて行いましたが、それぞれ4日間で、一日の平均参加者は56名、延べ450名になりました。

今年度は、「軟質磁性材料のABC」を5月から開講する計画をしております。先生は、元TDK(株)・取締役・基礎材料研究所長であられた、落合達四郎様にお願いしているところであります。

最後に年2回発行している「BM News」ですが、多田機関誌編集委員長をはじめ委員の皆さんのご努力で、益々、内容が多彩で品格ある機関誌になってきました。編集に当たり、昭和電工の渡辺直敏様には、レイアウトから会議室のご提供まで大変お世話になっております。機関誌はいつまでも残りますので、これからも宜しくお願い致します。以上が協会の主な活動状況であります。

さて続いて、2007年度ボンド磁石の生産推定値を 簡単にご報告致します。
この集計は、企画委員会が行い、石田企画委員長が中心になってまとめたものです。まだ最終結果ではありませんが、協会としての公式発表は、3月頃になる予定です。

その集計結果であります。2007年の日本国内に於ける生産は、重量では14,370トンで前年比119%、金額では、271億円で前年比125%の見込であります。

この値に中国やタイなどで生産されている日系企業の海外生産金額390億円（前年比110%）を含めると、合計661億円になり、前年比116%になると推定されます。

ボンド磁石の分類では、フレキシブルボンド磁石が微減で、リジッドボンド磁石と希土類ボンド磁石は二桁増となりました。

さらに個別のボンド磁石について、日本国内の市場状況を簡単に説明します。

1. フレキシブルボンド磁石

昨年同様減少傾向が継続しております。映像・音響分野では、海外製品への移行とともに、需要の減少により、重量・金額ともに減少しました。回転分野では、昨年同様低価格対応が厳しく、また中国メーカーの伸長により、重量・金額とも大きく減少しました。OA分野では、リジッドへの移行が一段落。製品需要の増加もあいまって微増となりました。その分野は、生産数量3,970トンで前年比99%、金額30億円で前年比96%でありました。

2. リジッドボンド磁石

家電・その他の分野を除く 全ての分野で重量・金額とも増加となりました。但し、磁粉出荷量とのバランスから統計数値の修正を余儀なくされたため、プリンタを含むOA分野において、上方修正したことにより、大幅増加となりました。その結果、生産数量9,800トン、前年比128%、金額145億円、前年比128%になりました。

3. 希土類ボンド磁石

映像・音響・家電分野では、大幅減少しましたが、回転、OA、自動車分野の躍進が、それらをカバーする形となっております。希土類におきましても、リジッド同様、数値の上方修正を行いました。MQパウダーを含め、各種磁粉の推定総出荷数量から逆算して推定した結果です。希土類ボンド全体では、数量600トン、前年比133%、金額96億円、前年比133%になりました。

これで ボンド磁石生産推定値の報告を終わります。

最後になりますが、昨年の当協会の国際シンポジウムでは、ボンド磁石の資源問題も取り上げました。レアメタルの価格高騰と安定供給の危機への対応策として、現在、産官学が一体となって、新規供給源の探索、リサイクルの推進、使用量の削減の研究などが始められております。

我々に関係する希土類磁石も、使用量を削減する設計や等方性より異方性磁石にして節約するとか、リサイクルし易い設計にするなど、研究の余地が多くあると思います。

日本はもともと資源の乏しい国ですので、一度製品として使用した希土類をリサイクルする、希土類元素の完全循環システムの構築とそれに関連する技術の超先進国でなければならないと思います。当協会もこれらに関連する優れた研究を技術例会などで取り上げて、応援させていただきたい思います。

2007年のボンド磁石は、大きく伸びました。2008年も皆様の目標が達成され、前進する良い年になることを祈念して、挨拶にかえさせていただきます。

長時間ご静聴 有り難うございました。